



『新しい戦前』ではなく『平和の準備』を！

人権を大切にし若者や子育て世代が住みたくなるまちに！

くまがい桂子市議 12月議会で質問

「住環境整備」・「学校トイレに生理用ナプキンの設置」・「学校給食費と高卒まで医療費無償化」を



◆公営住宅の同性カップルなどの入居対象拡大を

熊谷 北海道では、札幌市など4市でパートナーシップ制度も整備され、同性カップルも含めて道営住宅の入居対象を拡大する方針だが、本市としても性的マイノリティの方たち等の人権擁護のためにも、公営住宅の入居対象を拡大すべきではないか。

市長 今後、市民ニーズを踏まえ、他市町村の状況を注視しつつ、市全体の方針として慎重に考える。

熊谷 今後、他の市町村でも、続々とパートナーシップ制度が準備されると考える。人権擁護のまちとして、ぜひ入居対象の拡大を。

◆女性に優しいまちづくりを

熊谷 「生理の貧困」の対応策として、生理用品の無償配布をしながら、女性の生活困窮者について適切な支援をすべきではないか。

市長 女性の生活困窮相談は全体の6割。現在も「生活困窮者自立支援事業」の中で適切に支援している。

熊谷 保管期限が迫った防災備蓄品の生理用品を、ぜひ、困窮者に情報の周知徹底をしつつ、無償提供を。

市長 今後、他市町村の動向を把握しつつ、検討する。

熊谷 女子児童生徒が安心して教育を受けるために、先進地のように、学校女子トイレに生理用品の配置を。

市長 現在保健室で対応している。今後、学校現場との協議を深めていく。

◆子育て世代に魅力ある政策を

熊谷 子育て支援策として、「学校給食費」や「高校卒業までの医療費」の無償化を実施すべきではないか。

教育長・市長 年間予算で、給食費無償化に約1300万円、高卒までの医療費無償化には約150万円が必要。子育て政策全体の中で検討する。

熊谷 人口を増やすのが喫緊の課題。子育て世代が「希望が持て、住み続けようと思えるまち」にすることで、若い世代の定住や移住が増えてくることが先進地の事例で明らか。今後、チョコレート会社やホテルなどの雇用が増大し、そこで働く人たちから「住みたいまち」として、選ばれるためにも、今回の質問3件の内容である、公営住宅の「住環境整備」・子育て支援の「学校トイレに生理用ナプキンの設置」・「学校給食費と高卒まで医療費無償化」等の政策はどれをとっても、大掛かりな予算を必要とするものではない。夕張高校存続のためにも、若者や子育て世代が「夕張に住みたくなる」政策を要望する。



1月28日、統一地方選挙勝利をめざす「日本共産党と後援会総決起集会」(主催：日本共産党南空知後援会)が行われました。午前の部は岩見沢会場で、午後からは開催された栗山会場で、オーブニングの

Gブラザーズの歌と演奏の後、岩淵友参院議員が挨拶に立ち、「今、暮らしが大変・コロナ・物価上昇・賃金上がらな



い・年金削減、みんな冷たい政治が起こったこと。岸田首相は大企業にお願いするだけ。政治の役割を果たしていかない」「国会は『戦争する国づくり』を許すか」等、国会情勢や共産党の提案を話し、

「原発使用期限の延長・新設。福島の状態を顧みない原発方針の大転換も大問題」等、国会情勢や共産党の提案を話し、

「共産党を大きくすることが統一地方選挙の確かな力。これまで応援団だった皆さん、ぜひ共産党へ入党を」と訴えました。総決起集会では、



「同じ歳でうれしい!!」岩淵参議と櫻井あき予定候補

党と後援会・南空知総決起集会に160人が参加 「暮らしを壊し、戦争する国づくり」ストップ!



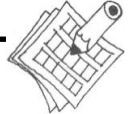
実績のある共産党は安心して応援できる
最初に紹介された夕張市議選挙の櫻井あき予定候補は、「今、『新しい戦前』と言われるほど。『平和を望むなら平和の準備をしよう』というのが一番の本質。反戦平和を貫き、何よりも暮らしを大事にする共産党に大きな希望をもっています。『共産党は実績のある政党だから安心して応援できる』と励をいただきました。大切な議席を受け継

南空知一市四町の予定候補が紹介されました。



ぎ、私らしいやり方で市民の声を市政に反映できるよいう力を尽くします」と力強く決意表明し、会場から大きな拍手が送られました。
栗山町では、元町議の重山雅世さん、南幌町では現職の熊木恵子さん、長沼町は現職の藪田亨さん、由仁町では夕張出身の大竹真由美さんがそれぞれ立候補の決意を表明し、最後に「全員の当選めざして頑張ろう！」で締めくくりました。

くずさんの夕張歴史散歩 (195)



人間の働くところでない

(高温現場でのたたかい④)

現場からのたたかい

蒸し風呂のような現場では働けない、炭車(トロッコ)も走れない坑道では働けないと、

鉦三区の職場と第二運搬の職場は作業拒否のたたかいに入ります。

まず、現場の実態と要求の中身を仲間に伝えようと「ピラ」を作り、繰り込み*や人車乗り場で手渡します。受け取る仲間も同じような環境で働かされているだけに、大いに共感を呼びました。また、炭鉱病院や選炭場の坑外職場などにもオルグが続きました。

現場だけでなく、家庭の中にも理解を得ようと全山の炭住に戸別配布を行い、説明を進めました。普段人前でしゃべったことのない炭鉱夫が、しどろもどろ話す姿は、真剣そのものでした。

デモ行進は市民に訴え

更に、坑内ではヘルメットにキャップライトを点け、炭鉱長屋をデモ行進し、さらには一般市民の住む市街地に、デモ行進が繰り出し訴えました。(写真) 7月14日以来の就労拒否のたたかいは、19日の夕炭労の本部委員会は、7月26日以降無期限のストライキに入ることを決定し、いよいよ全山の闘争に発展しました。

団体交渉再開

会社側からの交渉再開の申し入れによって、7月24日の夜になって団体交渉が始まりました。結果は、高温問題、坑道維持の要求は殆ど通りましたが、「応量カット」問題だけは会社側が強行に抵抗して譲らず、解決を持ち越して終わりました。

* 坑内に入る前に、作業の支度や準備、その日の作業内容を打ち合わせする場所



「不良現場では働けぬ」と市内をデモ行進



岩瀨 友「国会かけある記」
参議院議員

岩瀨 友

新しい戦前にさせない

先日、「ラーゲリより愛を込めて」という映画を見てきました。「ラーゲリ」とは収容所のこと。第2次世界大戦後、ソ連に抑留された山本幡生さんの実話をもとにした映画です。シベリアという極寒の地で重労働を強いられ、飢えに苦しみながらも希望を失わず、人間らしく生きていくことを失わず、仲間を励まし続けた山本さんの姿が描かれています。

戦争がいかに人間性を奪うものなのか、家族や仲間の存在や文化を楽しむ心が生きることにながっているかを改めて感じる映画でした。山本さんも一人ひとりの人間に権利があり、それが大切にされること、それを奪う戦争のない社会を願っていたと思います。

今、街頭で訴えていると、若い人たちや男性の足がとまるという話をよく聞きます。戦争は遠い昔の話でも映画のなかのことでもなく、自分たちの問題だと感じている方が増えているのではないのでしょうか。

23日から通常国会が始まりました。この国会で大きく問われるのが戦争する国づくりをめぐる問題です。岸田政権は、選挙で信を問うこともせず、国会にも国民にもまともな説明もないままに、閣議決定だけで強行する。しかも真つ先にアメリカに報告し、歓迎される。「いつたいどの国の首相なのか」「勝手に決めるな」という声があがっています。

新しい戦前にさせないために、みなさんと世論と運動を広げるとともに、大いに論戦したいと思っています。